京都市のジェンダー問題を可視化する

2023.02.23.京都市会議員　ほり 信子

・コロナ禍のもとで、浮かび上がってきた「女性の貧困」「女性の自殺」女性の悩み相談とともに、「生理用品の配付」を文化市民局が実施。「生理の貧困」という言葉が市民権を得て、公然と使われるようになっている。

■「生理の貧困」女性相談とともに、生理用品が配付された。

・文化市民局が、不安を抱える女性に寄り添った相談支援事業とともに、「生理用品」を 5 万パック提供。社会福祉協議会、公立学校、大学、日本語学校等に配置。食料支援等を通しても配付。（資料Ｐ58）

・新婦人の団体等が各小中学校へトイレに配置をと申入れ。2021 年 10 月末時点で 12 校だったが、2022 年 12 月には 24 校に。（資料 P175）

・その後の「生理用品」の設置や配付残量（5 万パックのゆくえ）について、どうなっているのか追跡中である。（資料請求している。教育委員会に対して）

■リプロダクティブ・ヘルス・アンドライツの精神に則った行政を求める。

・京都市として、「生理用品」の提供が、単なる「生理の貧困」ということのみならず、「リプロダクティブ・ヘルス・アンドライツ」つまり、性や出産にかかる特性に対して本人の意思が尊重され、そのための情報や手段が得られる基本的権利を保障する取り組みの一つとしての位置づけを求め、公共施設へ「トイレットペーパー」と同じように「生理用品」の設置を求める。

・そんな中で、交通局が 2023 年の予算の新規事業として、「市バス・地下鉄における社会課題解決への貢献」として、①地下鉄駅トイレへのサニタリーボックスの設置(男性用トイレ烏丸線 31 か所、東西線 42 か所) ②地下鉄駅トイレへの生理用品無料提供サービスの実施に向けた検討、その他地下鉄構内への授乳スペースの試行設置等を行なう。

■「いのちの安全教育」と包括的性教育の公教育への位置づけを（統一協会との関わりも含めて）

・2023 年 4 月から全国で進められようとしている「いのちの安全教育」の目的は、性犯罪・性暴力の被害者にも加害者にも、傍観者にもならないための教育というが、予防や対処方法のみで、「性教育」の位置づけをしていない。学校教育の中に、発達年齢に即して、性を人権の視点でとらえ、心や体、人間関係等幅広い側面から体系的に学ぶ「包括的性教育」を位置づけることを求める。（2/27 代表質問・関口先生のお話を参考に）

・京都市内の中学校での「デート DV」をテーマにした学校での実践(新聞報道による)を例に挙げ、各学校で、子どもたちの実態に即しての「いのちの安全教育」を進めるためにすべての教職員が取り組むための研修を持つことや各学校の実情に合わせてカリキュラムの構築を求める。（2/27 代表質問）

■ジェンダー平等と「性教育」「性の多様性」の取組状況を質疑している。

・各学校で、児童生徒にとって、「信頼できる大人の存在」として教職員が身近にいることが重要。安心して相談できる体制ができているか質疑している。SNS を活用しての相談体制を教育委員会として構築している。

・各学校で、「性教育」の実施状況や「具体的なテーマ」等を質疑しながら、「性犯罪」の防止「性の多様性」の学び等「性教育」に関する指導の重要性を質疑してきた。

・自民党と統一協会との繋がりのなかで、統一協会の考え方を浸透させるために、各学校への「外部講師として」出前授業などの取組が行なわれていないか調査。

■ウィングス京都の運営・女性支援の取組(ここ最近の質疑・やまね議員)

・男女共同参画センターのある「ウィングス京都」。不安を抱える女性に寄り添った相談活動や支援など、女性の活動拠点として、重要な役割を果たしている。

・男女共同参画審議会議の会長が「女性支援法が 2023 年 4 月から施行される。この男女共同参画センターという施設の重要性が大きくなると考える」と発言している。また、「第 5 次京都市男女共同参画計画」(2021 年 9 月)では、ウィングスについて「京都市の男女共同参画の拠点施設として市民のニーズに対応した機能の充実に努める。」とあることなどを指摘しながら、男女共同参画、ジェンダー平等推進のための機能をより充実させるべき施設であり現在の機能を縮小・後退させないよう求める。

・2022 年 12 月に質疑。ウィングス京都が指定管理者を選定しようとした時に、公共性・公益性が高く、専門性も求められる施設だからこそ、男女共同参画センターの運営は、指定管理は馴染まないし、全国的にも公設公営が多いことを指摘している。現在の指定管理者は男女共同参画推進協会が行なっている。

・ウィングス京都の今後について「行財政改革計画」で「存廃」を含めて検討していることやサウンディング型市場調査を実施し、施設の有効活用を図るために、民間事業者からアイデアを募集している。そして、今現在は提案内容を精査しあり方を検討しているとの答弁。

・共産党を除く各会派は、ウィングス京都を女性の活動の拠点としての位置づけだけでなく、他都市では、様々な施設が入っているから、多角的に、スペースの有効活用を盛んに求めている。

・昨日(2/22)の京都市姿勢報告・予算要求こんだんかいでも、ウィングス京都の存廃に関わってのことが今予算の中に具体的なものが提起されているかの質問があった。サウンディング調査は 6 社からの応募があり、結論はまだ、出ていない。今後の運動と議会での論戦が重要になっている。